



七松小学校 学校だより

令和3年度
8月・9月号
尼崎市立七松小学校
校長 江上佳宏

豊かな社会を創造する人材の育成

～6年生・みんなで考えたまちづくり～

学習指導要領は、2030年頃までの社会の在り方を見据え、これから子どもたちが活躍することとなる将来を見通した姿を考えています。

社会の変化は、加速度を増し、複雑で予測困難となっていており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、すべての子どもたちの生き方に影響するものとなっています。このような時代だからこそ、子どもたちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待されています。学校教育に「外の風」、すなわち、変化する社会の動きを取り込み、世の中と結びついた授業の展開が必要とされています。

今の学習指導要領では、子どもたちが、受け身ではなく社会の変化に向き合い、主体的に学び自立して他者と協働しながら豊かな社会を創造する人材の育成がめざされているのです。

ホームページでも掲載していますが、7月19日（月）4時間目、七松小学校に稲村和美市長がお越しになりました。6月上旬から取り組んだ、国語の教材「私たちにできること」を通して、自分たちの住む尼崎市をさらによりよくするため、調査探求活動を行い、市役所のまちづくり提案箱へ提案をしました。

子どもたちは、公園の公衆トイレの課題・歩きタバコやタバコのポイ捨ての解消・公園の安全対策・自転車事故を減らすために・違法駐輪・カラスの被害と対策・河川のゴミと環境問題・体育館に空調施設の設置・オンライン授業の推進・文化祭で地域の人とふれ合おう・近所づきあいの多い地域へ等18の提案を行いました。稲村和美市長が子どもたちに回答書を渡して、子どもたちの質問を受けたり、感想を聞いたりされました。

子どもたちが考えたまちづくりの提案には、市役所の延べ約30の担当各課の職員の皆様が子どもたちにわかりやすい文章で具体的に回答を作成くださいました。

学校が編成する教育課程の基準となる学習指導要領の趣旨を保護者や地域の皆様と共有し、教職員とともに、これからの地域社会を創り、主体的に未来を創造する子どもたちを育成するために引き続きお力添えをお願いいたします。

最後になりましたが、8月30日より2学期が始まりました。更なる新型コロナウイルス対応や台風等、まさに、予測困難な情勢の中でのスタートとなります。本校教職員一同、子どもの健康・安全を第一義として取り組んでまいります。

